

I 学校経営

1 学区の概要

山形市立第三小学校は、山形市中心部より北部に位置する住宅街にある学校で、両所宮の門前町として発達した宮町、打刃物町としての鍛冶町・旧四日町・旧歩町・円応寺町、鋳物町としての銅町など 21 町区からなる地域をもつ。学区の東側には、馬見ヶ崎川が流れ、これに沿って河原公園地、市陸上競技場（改修中）、護国神社、国分寺薬師堂と千歳公園がある。また、北西には山形商人が昔から最上川と日本海の通船安全を祈願した鳥海月山両所宮があり、いずれも古い歴史をもち、山形市民信仰の地、憩いの場所として親しまれている。



三小学区は、昔から鋳物、打刃物を中心に栄えた町で現在もなお続いているが、工場の多くは工業団地に移転し、近代化されさらに大きく発展している。工場の移転後には、北部開発計画による街づくりが進められ、市の南北を結ぶ二車線の道路の完成に伴って、街の活性化が進んでいる。

本校は、明治22年山形市政と同時に開校し、古い歴史をもつ。最多児童数は、2885名（昭和8年）であったが、旧市中心部の過疎化や第九小学校の新設等により、児童数は減少していった。平成8年度に学区再編成となり、銅町・円応寺町・宮町の一部も加わり、昭和32年、第9小学校へ分離する前の学区となり、532名で新たなスタートをきった。

数字の「3」の形に似ていることから、高山植物の女王と言われる「駒草」を学校のシンボルとしている。

春の植木市、正月の初詣や季節ごとの各種例大祭には多くの人々が訪れる地域となっている。



銅町



県護国神社



馬見ヶ崎河川敷



鳥海月山両所宮



駒草